

平成28年度 市民意識調査

# 市政満足度調査について

平成28年12月

北九州市

## は　じ　め　に

北九州市では、市民の意見を今後の市政運営に役立てるため、毎年「市政評価と市政要望」及び「特定テーマ」についての市民意識調査を実施しています。

「特定テーマ」調査では市政の重要事項を取り上げており、本年度は、「市政満足度調査について」というテーマで調査を行い報告書にまとめました。

北九州市は、平成 20 年 12 月にまちづくりの指針となる北九州市基本構想・基本計画「元気発進！北九州」プランを策定し（平成 25 年 12 月改訂）、「人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまち」を目標に掲げ、その目標を実現するため、「人づくり」、「暮らしづくり」、「産業づくり」、「都市づくり」といった 4 つの基本方針を定めてまちづくりを進めています。

今回の調査で寄せられた市民の皆さまからのご意見は、今後の北九州市のまちづくりのための施策の検討に役立てていきたいと思っております。

アンケート調査にご協力くださいました皆さま方に、厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 12 月

北九州市長　　北　橋　健　治

# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査の実施	3
4	回収結果	4
II	調査結果	5
1	回答者の構成	5
2	調査の結果	6
	(1) 子育てや教育について	6
	(2) 生涯学習について	20
	(3) 地域での支え合いについて	26
	(4) 安全・安心なまちづくりについて	33
	(5) 高齢者の暮らしについて	40
	(6) 人にやさしいまちづくりについて	46
	(7) 快適な生活空間について	52
	(8) 公共施設について	59
	(9) 文化やスポーツについて	65
	(10) 自治会やNPOなどの市民活動について	77
	(11) 協働のまちづくりについて	83
	(12) 市民に身近な行政について	89
	(13) 雇用の機会について	95
	(14) 北九州市の魅力について	101
	(15) 小倉・黒崎について	105
	(16) 交通機能について	113
	(17) 市民の環境活動について	125
	(18) 自然環境について	133
	(19) 国家戦略特区について	139
	(20) 生活満足度について	143
	(21) 市への愛着について	147
3	まとめ	151

資 料 編

1	クロス集計表 .....	156
2	調査票 .....	200

# 市政満足度調査について

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

北九州市では、毎年度、特定テーマについて市民意識調査を実施している。平成 28 年度は「市政満足度調査について」というテーマで実施した。

北九州市は、平成 20 年 12 月にまちづくりの指針となる北九州市基本構想・基本計画「元気発進！北九州」プランを策定し（平成 25 年 12 月改訂）、「人と文化を育み、世界につながる、環境と技術のまち」を目標に掲げ、その目標を実現するため、「人づくり」、「暮らしづくり」、「産業づくり」、「都市づくり」といった 4 つの基本方針を定めてまちづくりを進めている。

そこで、この 4 つの基本方針に基づく本市のまちづくりに対する市民の満足度を把握し、今後の施策検討の資料とするために本調査を実施したものである。

### 2 調査の設計

#### (1) 調査票

この調査は、郵送調査で実施するため設問をできるだけ整理し、以下 21 分野 29 項目の設問で構成した。

なお、問 1 については、例年実施している「市政評価と市政要望」の設問であり、別途報告書作成を行っている。（調査票：巻末参照）

#### 今年度調査項目

(1) 子育てや教育について		
問 2		① 子育てをめぐる環境づくりに対する満足感
	副問 2-1	② 安心して子育てができるまちだと感じられない理由
問 3		③ 子どもの教育をめぐる環境づくりへの満足感
	副問 3-1	④ 子どもたちが、いきいきと学び、成長していると感じられない理由
(2) 生涯学習について		
問 4		① 生涯学習に関する環境づくりへの満足感
	副問 4-1	② 生涯学習の環境が整っていると感じられない理由
(3) 地域での支え合いについて		
問 5		① 地域とのつながりの中で、安心して暮らせることへの満足感
	副問 5-1	② 地域とのつながりの中で、安心して暮らせると感じにくい理由
(4) 安全・安心なまちづくりについて		
問 6		① 犯罪のない安全・安心なまちづくりへの取組みへの満足感
	副問 6-1	② 犯罪のない安全・安心なまちづくりへの取組みが進んでいると感じられない理由
(5) 高齢者の暮らしについて		
問 7		① 高齢者に対するまちづくりへの満足感
	副問 7-1	② 高齢者がいきいきと暮らしていけるまちと感じられない理由
(6) 人にやさしいまちづくりについて		
問 8		① すべての市民がお互いを尊重し、安心して暮らすことへの満足感
	副問 8-1	② 市民がお互いを尊重し、安心して暮らせるまちだと感じられない理由
(7) 快適な生活空間について		
問 9		① 住みやすい生活環境を有するまちであることへの満足感
	副問 9-1	② 住みやすい、住み続けたい生活環境のまちだと感じられない理由
(8) 公共施設について		
問 10		① 市内の公共施設の安心、快適な利用に対する満足感
	副問 10-1	② 公共施設が、安心して、快適に利用できると感じられない理由

<b>(9) 文化やスポーツについて</b>	
問 11	① 文化芸術に親しめるまちであることに対する満足感
副問 11-1	② 文化芸術に親しめるまちだと感じられない理由
問 12	③ スポーツに親しめるまちであることに対する満足感
副問 12-1	④ スポーツに親しめるまちだと感じられない理由
<b>(10) 自治会やNPOなどの市民活動について</b>	
問 13	① 市民活動に参加しやすい環境にあることへの満足感
副問 13-1	② 市民活動への参加のしやすさが感じられない理由
<b>(11) 協働のまちづくりについて</b>	
問 14	① 協働してまちづくりを進めていることへの満足感
副問 14-1	② 協働してまちづくりが進んでいないと感じる理由
<b>(12) 市民に身近な行政について</b>	
問 15	① 市民の意見が、市政に反映されていることへの満足感
副問 15-1	② 市民の意見が、市政に反映されていると感じられない理由
<b>(13) 雇用の機会について</b>	
問 16	① 市が取り組む人材育成・就業支援に対する満足感
副問 16-1	② 市が取り組む人材育成・就業支援が十分とは感じられない理由
<b>(14) 北九州市の魅力について</b>	
問 17	① 市外からの来訪者に対して、自慢できるものの有無
<b>(15) 小倉・黒崎について</b>	
問 18	① 小倉都心のにぎわいに対する印象にみる満足感
問 19	② 黒崎副都心のにぎわいに対する印象にみる満足感
<b>(16) 交通機能について</b>	
問 20	① 市内の車移動の利便性に対する満足感
副問 20-1	② 市内での車移動の利便性が感じられない理由
問 21	③ 市内での公共交通機関の利便性に対する満足感
副問 21-1	④ 市内の公共交通機関の利便性が感じられない理由
<b>(17) 市民の環境活動について</b>	
問 22	① 市民の、環境に配慮した生活行動の有無
問 23	② 市や市民が取り組む環境への配慮行動への満足感
<b>(18) 自然環境について</b>	
問 24	① 自然とふれ合える、身近な自然環境があることへの満足度
副問 24-1	② 自然環境を身近に感じられない理由
<b>(19) 国家戦略特区について</b>	
問 25	① 国家戦略特区の認知度
<b>(20) 生活満足度について</b>	
問 26	① 生活満足度について
問 27	② 自由意見
<b>(21) 市への愛着について</b>	
問 28	① 市への愛着について
問 29	② 自由意見
フェイスシート	性別・年齢・所在地居住歴・職業・居住区・同居家族

## (2) 標本設計

[調査対象者]

市内に居住する 18 歳以上の男女 3,000 人

※前年度までは 20 歳以上の男女を対象としていたが、公職選挙法等の一部を改正する法律（平成 27 年 6 月 19 日公布、平成 28 年 6 月 19 日施行）の施行に合わせ、今年度は 18 歳以上の男女を対象としている。

[標本抽出]

平成 28 年 5 月 31 日現在の住民基本台帳（818,478 人）をもとに 3,000 人を等間隔抽出

### 行政区別の設定標本数

区 分	居 住 人 口	抽 出 標 本 数	構 成 比
門司区	87,640 人	363 人	12.1 %
小倉北区	155,740	577	19.2
小倉南区	177,686	657	21.9
若松区	71,481	264	8.8
八幡東区	59,778	212	7.1
八幡西区	215,455	755	25.2
戸畑区	50,698	172	5.7
計	818,478	3,000	100.0

(注 1) 居住人口は 18 歳以上人口で抽出リード件数である。

(注 2) 構成比の単位未満は四捨五入で表示したため、計と各区の合計は必ずしも一致しない場合がある。

### (3) 調査方法

郵送調査法

## 3 調査の実施

この調査は、北九州市市民文化スポーツ局市民総務部広聴課と企画調整局政策部企画課が主体となり実施したものである。

### (1) 実査

調査開始 平成 28 年 6 月 20 日

督促状発送 平成 28 年 7 月 4 日

回答期限 平成 28 年 7 月 15 日

### (2) 集計・分析

集計、分析・コメントは株式会社東京商工リサーチが実施した。

※数値の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内容の合計は必ずしも一致しない場合がある。

※サンプル数が少ない属性（10 人未満）の回答については、コメントでは触れないこととする。

#### 4 回収結果

発送標本数 3,000 票のうち、回収標本総数は 1,324 票であった。このうち有効回収数は、1,322 票であり、有効回収率は 44.1%であった。(前年度は有効回収数 1,365 票、有効回収率は 45.5%)  
なお、行政区別の回収状況は、下表のとおりである。

行政区別回収状況

区分	設定標本数	有効回収数	有効回収率
門司区	363 人	159 人	43.8 %
小倉北区	577	246	42.6
小倉南区	657	291	44.3
若松区	264	118	44.7
八幡東区	212	86	40.6
八幡西区	755	341	45.2
戸畑区	172	81	47.1
計	3,000	1,322	44.1



## II 調査結果

### 1 回答者の構成

有効回収数 1,322 票の標本は下表のとおりである。

#### 回答者の構成

N : 1,322

性別	男性	女性	無回答				
	41.5% 549人	57.9% 765人	0.6% 8人				
年齢	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
	6.2% 82人	11.1% 147人	14.7% 194人	17.0% 225人	24.2% 320人	26.2% 346人	0.6% 8人
現在地 居住歴	1年未満	2年未満	3年未満	5年未満	10年未満	20年未満	30年未満
	3.6% 47人	3.7% 49人	3.1% 41人	5.4% 71人	13.4% 177人	16.5% 218人	17.2% 228人
	30年以上	無回答					
	35.6% 470人	1.6% 21人					
職業	自営業	自由業	会社員	公務員・教員	農・林・漁業	主婦・主夫 (パートなど)	主婦・主夫 (専業)
	5.9% 78人	1.5% 20人	23.7% 313人	3.7% 49人	0.6% 8人	12.0% 159人	21.0% 278人
	学生	無職	その他	無回答			
	2.2% 29人	23.9% 316人	4.5% 60人	0.9% 12人			
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	12.0% 159人	18.6% 246人	22.0% 291人	8.9% 118人	6.5% 86人	25.8% 341人	6.1% 81人
同居家族	1人暮らし	夫婦のみ	親子 (2世代)	親・子・孫 (3世代)	その他	無回答	
	13.5% 179人	30.8% 407人	43.4% 574人	7.0% 92人	4.3% 57人	1.0% 13人	

なお、調査実施時期間近である平成 28 年 5 月 31 日現在の住民基本台帳による 18 歳以上の北九州市民の性別、年齢、住居区の属性別構成は下表に示すとおりである。

これを、今年度調査の有効回収の標本構成と比較すると、性別では調査サンプルの男性が実態より 5.1 ポイント低い結果となっている。年齢別では、例年の傾向であるが、有効回答率の低さを反映してか 10・20 歳代で調査サンプルが住民基本台帳の実態ベースより 7.7 ポイント低く、逆に 60 歳代では調査サンプルのウエイトが 6.2 ポイント高いのが目立っている。なお、行政区別では概ね両者間に大きな差はみられない。調査結果の解釈にあたっては、主にこの 3 点に関するウエイトの構成差異に留意されたい。

#### 平成 28 年 5 月 31 日現在の住民基本台帳による人口構成 (18 歳以上)

性別	男	女					
	46.6%	53.4%					
年齢	10・20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	
	13.9%	13.7%	16.3%	13.9%	18.0%	24.2%	
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	10.7%	19.0%	21.7%	8.7%	7.3%	26.3%	6.2%

## 2 調査の結果

### (1) 子育てや教育について

#### ① 子育てをめぐる環境づくりに対する満足感

問2 北九州市では、放課後の子どもの居場所づくりや、保育サービスの充実など、安心して子育てができる環境づくりを進めています。そこで、おたずねします。  
あなたは、北九州市は安心して子育てができるまちだと感じていますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	62	4.7
2 ある程度感じている	583	44.1
3 どちらとも言えない	398	30.1
4 あまり感じていない	164	12.4
5 ほとんど感じていない	32	2.4
無回答	83	6.3

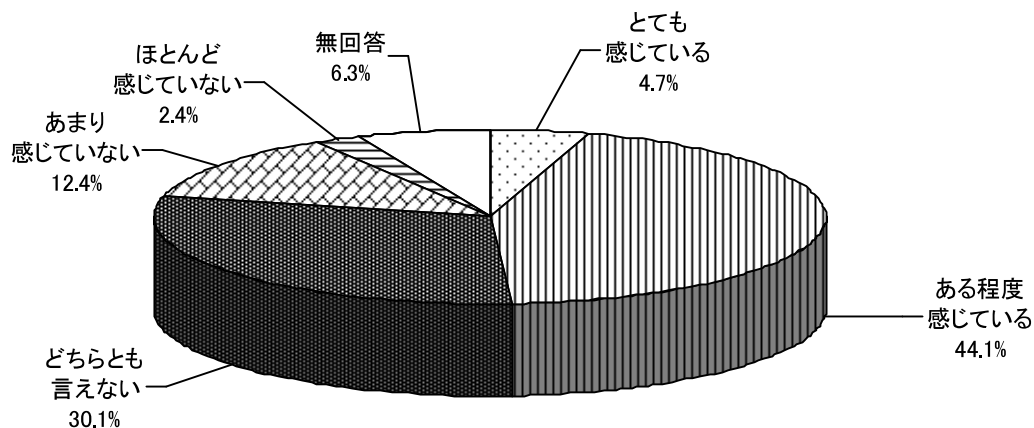
◇ 子育てをめぐる環境に対する、市民の満足感は、

・肯定層 48.8%

(「とても感じている」4.7%+「ある程度感じている」44.1%)

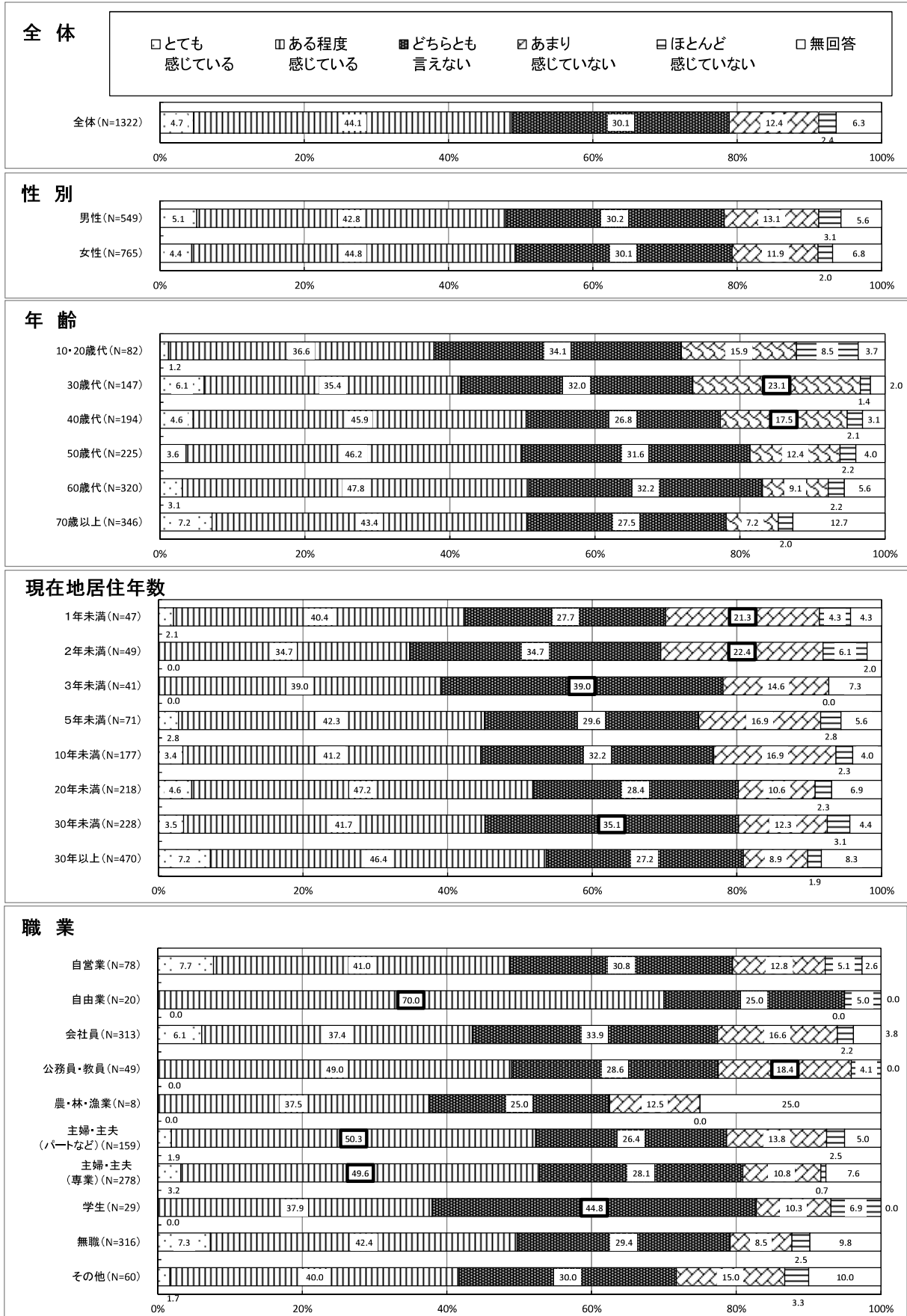
・否定層 14.8%

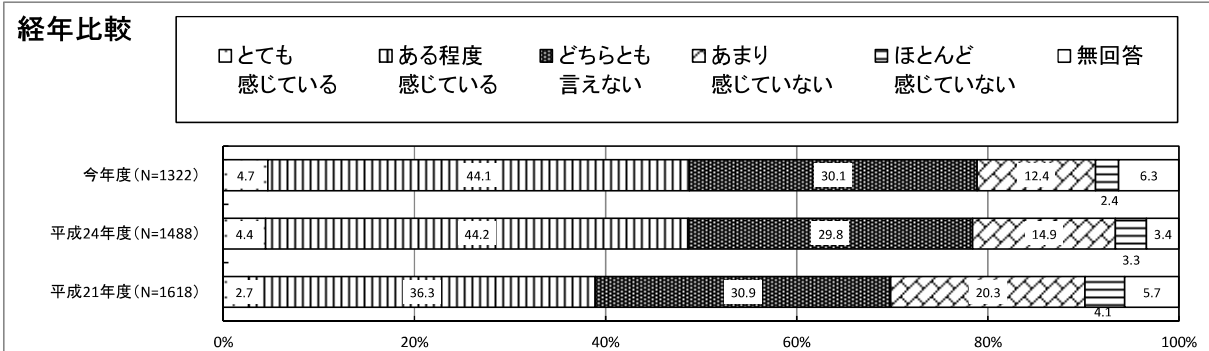
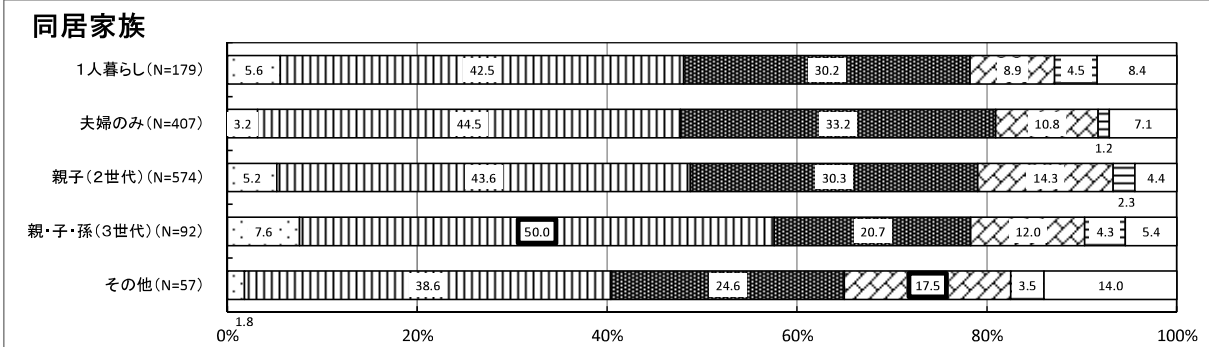
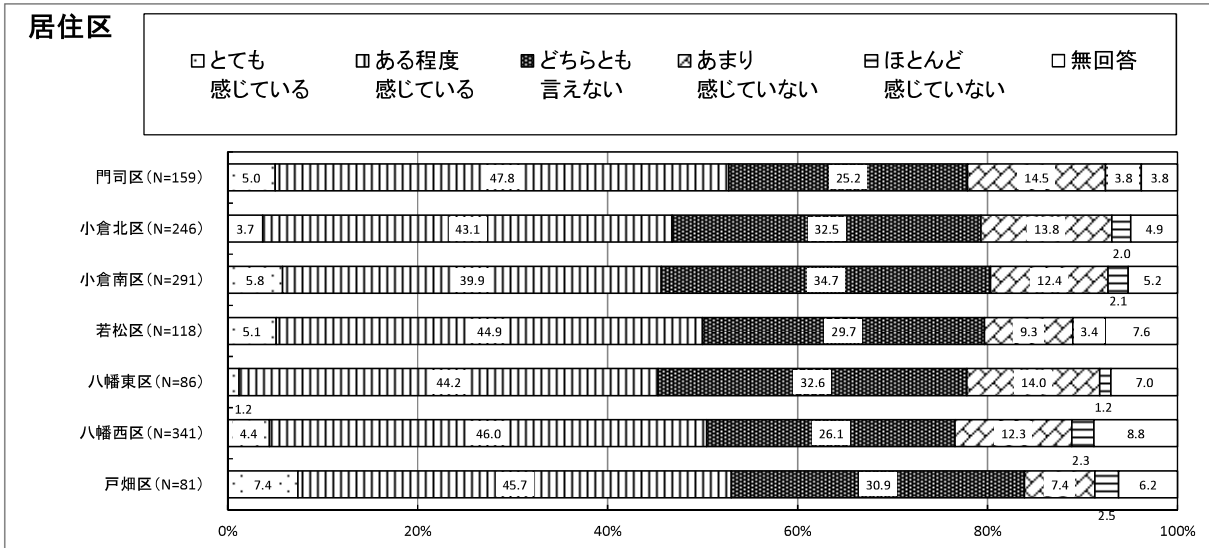
(「あまり感じていない」12.4%+「ほとんど感じていない」2.4%)



□ とても感じている	□ ある程度感じている	■ どちらとも言えない	□ あまり感じていない	□ ほとんど感じていない	□ 無回答
------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------

# ① 子育てをめぐる環境づくりに対する満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

② 安心して子育てができるまちだと感じられない理由

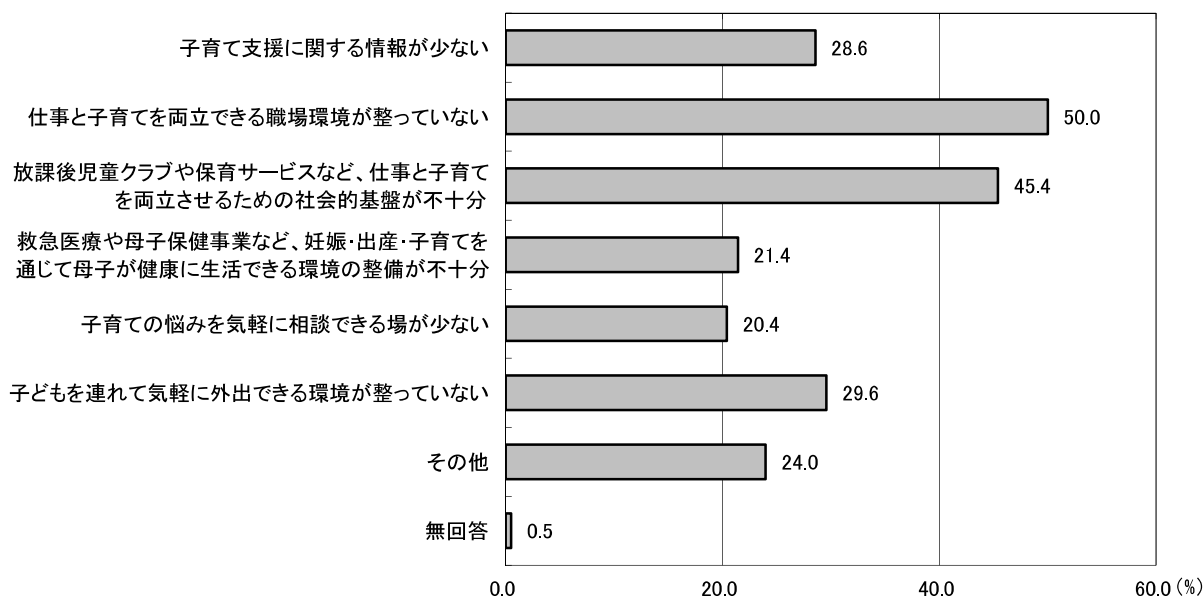
副問2-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを3つまで選んで下さい。

N : 196人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 子育て支援に関する情報が少ない	56	28.6
2 仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない	98	50.0
3 放課後児童クラブや保育サービスなど、仕事と子育てを両立させるための社会的基盤が不十分	89	45.4
4 救急医療や母子保健事業など、妊娠・出産・子育てを通じて母子が健康に生活できる環境の整備が不十分	42	21.4
5 子育ての悩みを気軽に相談できる場が少ない	40	20.4
6 子どもを連れて気軽に外出できる環境が整っていない	58	29.6
7 その他	47	24.0
無回答	1	0.5

◇ 安心して子育てができるまちだと感じられない主な理由は、

- 1位 「仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない」(50.0%)
- 2位 「放課後児童クラブや保育サービスなど、仕事と子育てを両立させるための社会的基盤が不十分」(45.4%)
- 3位 「子どもを連れて気軽に外出できる環境が整っていない」(29.6%)



② 安心して子育てができるまちだと感じられない理由

		サンプル数	子育て支援に関する情報が少ない	仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない	仕事と子育てを両立させるための社会的基盤が不十分	放課後児童クラブや保育サービスなどの環境の整備が不十分	産・子育てを通じて母子健康に生活で救急医療や母子保健事業など、妊娠・出産・子育てを通過して母子が健康に生活できない	子育ての悩みを気軽に相談できる場がない	子どもを連れて気軽に外出できる環境が整っていない	その他	無回答
全体		196	28.6	50.0	45.4	21.4	20.4	29.6	24.0	0.5	
性別	男性	89	24.7	49.4	42.7	20.2	24.7	30.3	22.5	0.0	
	女性	106	32.1	50.0	47.2	21.7	17.0	29.2	25.5	0.9	
年齢別	10・20歳代	20	10.0	45.0	45.0	20.0	10.0	45.0	45.0	0.0	
	30歳代	36	27.8	63.9	55.6	33.3	2.8	25.0	22.2	0.0	
	40歳代	38	36.8	50.0	42.1	13.2	21.1	36.8	28.9	0.0	
	50歳代	33	45.5	60.6	45.5	12.1	24.2	24.2	21.2	0.0	
	60歳代	36	27.8	44.4	38.9	36.1	33.3	27.8	11.1	2.8	
	70歳以上	32	15.6	31.3	43.8	9.4	28.1	25.0	25.0	0.0	
現所在地居住年数別	1年未満	12	25.0	58.3	66.7	41.7	8.3	25.0	25.0	0.0	
	2年未満	14	28.6	28.6	42.9	35.7	7.1	42.9	28.6	0.0	
	3年未満	6	33.3	83.3	50.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	
	5年未満	14	28.6	64.3	42.9	21.4	35.7	35.7	21.4	0.0	
	10年未満	34	26.5	55.9	47.1	14.7	17.6	20.6	29.4	0.0	
	20年未満	28	46.4	50.0	42.9	14.3	21.4	35.7	25.0	0.0	
	30年未満	35	22.9	51.4	40.0	25.7	20.0	37.1	22.9	0.0	
	30年以上	51	25.5	41.2	43.1	19.6	27.5	19.6	19.6	2.0	
職業別	自営業	14	21.4	50.0	50.0	14.3	28.6	57.1	21.4	0.0	
	自由業	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	会社員	59	25.4	62.7	49.2	25.4	16.9	27.1	22.0	0.0	
	公務員・教員	11	36.4	63.6	36.4	36.4	45.5	18.2	27.3	0.0	
	農・林・漁業	1	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	主婦・主夫(パートなど)	26	38.5	46.2	50.0	19.2	11.5	26.9	26.9	0.0	
	主婦・主夫(専業)	32	34.4	50.0	40.6	21.9	18.8	31.3	15.6	3.1	
	学生	5	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	60.0	60.0	0.0	
	無職	35	25.7	34.3	40.0	11.4	25.7	28.6	22.9	0.0	
	その他	11	36.4	36.4	36.4	27.3	27.3	18.2	36.4	0.0	
居住区別	門司区	29	31.0	62.1	37.9	24.1	20.7	51.7	13.8	0.0	
	小倉北区	39	28.2	35.9	48.7	33.3	10.3	35.9	28.2	0.0	
	小倉南区	42	28.6	47.6	45.2	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	
	若松区	15	40.0	40.0	26.7	20.0	13.3	33.3	13.3	0.0	
	八幡東区	13	30.8	53.8	30.8	15.4	23.1	15.4	23.1	7.7	
	八幡西区	50	24.0	62.0	52.0	14.0	18.0	20.0	28.0	0.0	
	戸畑区	8	25.0	25.0	75.0	50.0	50.0	0.0	12.5	0.0	
同居家族別	1人暮らし	24	33.3	41.7	25.0	16.7	16.7	20.8	41.7	0.0	
	夫婦のみ	49	22.4	51.0	53.1	32.7	26.5	32.7	16.3	0.0	
	親子(2世代)	95	31.6	49.5	45.3	20.0	18.9	32.6	23.2	0.0	
	親・子・孫(3世代)	15	20.0	53.3	53.3	6.7	6.7	26.7	40.0	0.0	
	その他	12	33.3	58.3	41.7	8.3	33.3	16.7	8.3	8.3	

(注) 太字 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

## 子育てをめぐる環境づくりに対する満足感

### 【全体的傾向】

子育てをめぐる環境づくりに対する、市民の満足感をみると、「とても感じている」は 4.7%、「ある程度感じている」は 44.1%、合計すると、肯定層は 48.8%である。一方、「あまり感じていない」は 12.4%、「ほとんど感じていない」は 2.4%、合計すると、否定層は 14.8%である。

肯定層（48.8%）が否定層（14.8%）を 34.0 ポイント上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、肯定層は 10・20 歳代では 37.8%であるが、60 歳代で 50.9%、70 歳以上で 50.6%、40 歳代で 50.5%となっており、概ね年齢が高い層を中心に高くなっている。一方、否定層は 30 歳代で 24.5%、10・20 歳代で 24.4%と、子育ての中心の年齢層である若年層で高くなっている。
- 現在地居住年数別でみると、肯定層は 30 年以上（53.6%）で最も高く、次いで 20 年未満（51.8%）と、居住年数の長い層で高くなっている。一方、否定層は最も低いのは 2 年未満（28.5%）で、次いで 1 年未満（25.6%）となっており、居住年数の短い層で高くなっている。
- 職業別にみると、肯定層は自由業（70.0%）で高く、反対に、否定層は公務員・教員（22.5%）で高くなっている。なお、ここでは、標本数が少ない農・林・漁業（8 サンプル）を除いてみることにする。（以下、同様）
- 居住区別にみると、肯定層は戸畑区（53.1%）で最も高く、最も低いのは八幡東区（45.4%）でその差は 7.7 ポイントと、居住区による大きな差はみられなかった。
- 同居家族別にみると、肯定層は親・子・孫（3 世代）（57.6%）で最も高く、唯一 5 割を上回った。否定層はその他（21.0%）で最も高く、唯一 2 割を上回った。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成 21 年度及び 24 年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成 21 年度の 39.0%→平成 24 年度 48.6%→今年度 48.8%と毎回高くなっている。逆に否定層は、平成 21 年度 24.4%→平成 24 年度 18.2%→今年度 14.8%と、毎回低くなっている。

## 安心して子育てができるまちだと感じられない理由

### 【全体的傾向】

安心して子育てができるまちだと感じられない主な理由は、「仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない」（50.0%）が最も高く、次いで「放課後児童クラブや保育サービスなど、仕事と子育てを両立させるための社会的基盤が不十分」（45.4%）、「子どもを連れて気軽に外出できる環境が整っていない」（29.6%）の順となっている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない」は 30 歳代（63.9%）、50 歳代（60.6%）、「放課後児童クラブや保育サービスなど、仕事と子育てを両立させるための社会的基盤が不十分」は 30 歳代（55.6%）、「子どもを連れて気

軽に外出できる環境が整っていない」は10・20歳代（45.0%）と40歳代（36.8%）で特に高くなっている。

- 職業別にみると、「仕事と子育てを両立できる職場環境が整っていない」は公務員・教員（63.6%）で最も高く、次いで会社員（62.7%）となっている。
- 居住区別にみると、「子どもを連れて気軽に外出できる環境が整っていない」は門司区（51.7%）で特に高くなっている。

#### 【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 育休から復職する時、保育園に入れない。
- ・ 子どもが自由に遊ぶことができる公園が減っている。
- ・ 地域の集会所を有効に開放して欲しい（有効利用されていない）。



③ 子どもの教育をめぐる環境づくりへの満足感

問3 北九州市では、家庭・学校・地域が連携しながら、確かな学力と体力を向上させる教育の充実や心の教育の推進、非行から子どもを守る環境づくりなどに取り組んでいます。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市の子どもたちは、いきいきと学び、成長していると感じますか。

N : 1,322人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 とても感じている	63	4.8
2 ある程度感じている	431	32.6
3 どちらとも言えない	472	35.7
4 あまり感じていない	215	16.3
5 ほとんど感じていない	31	2.3
無回答	110	8.3

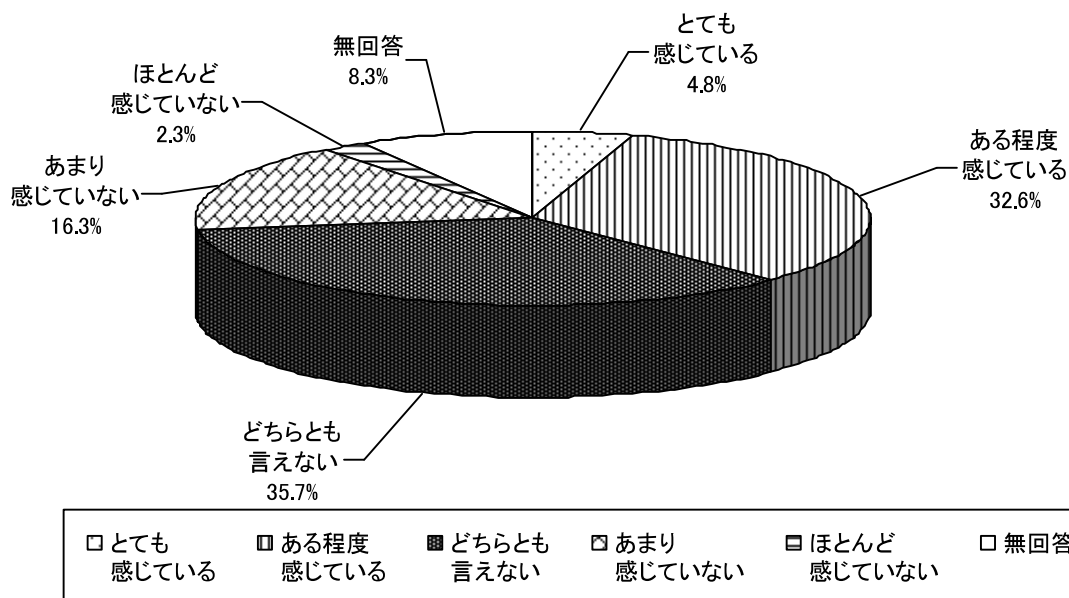
◇ 子どもの教育をめぐる環境づくりに対する、市民の満足感は、

・肯定層 37.4%

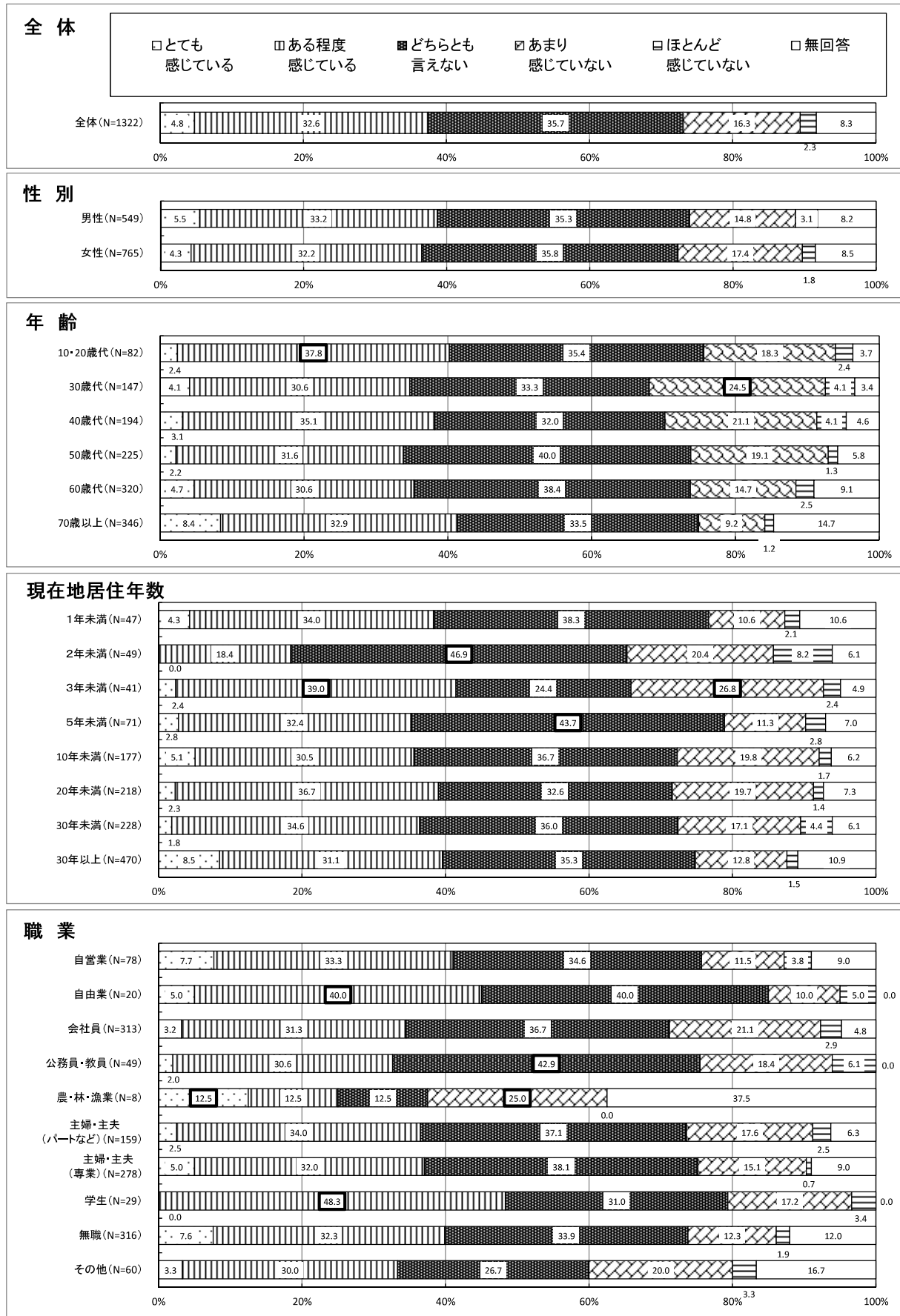
(「とても感じている」4.8%+「ある程度感じている」32.6%)

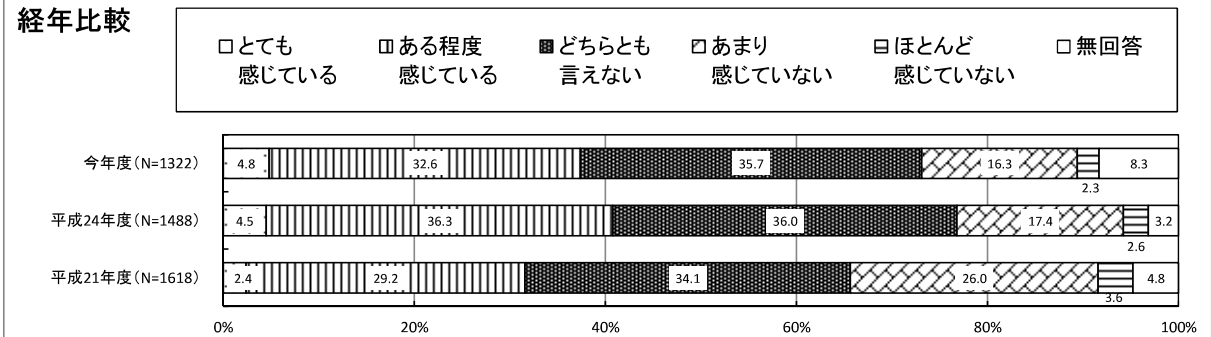
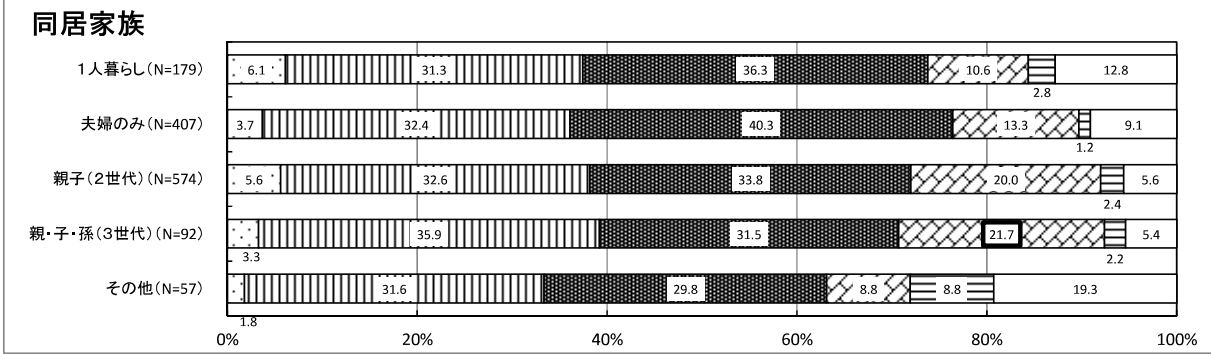
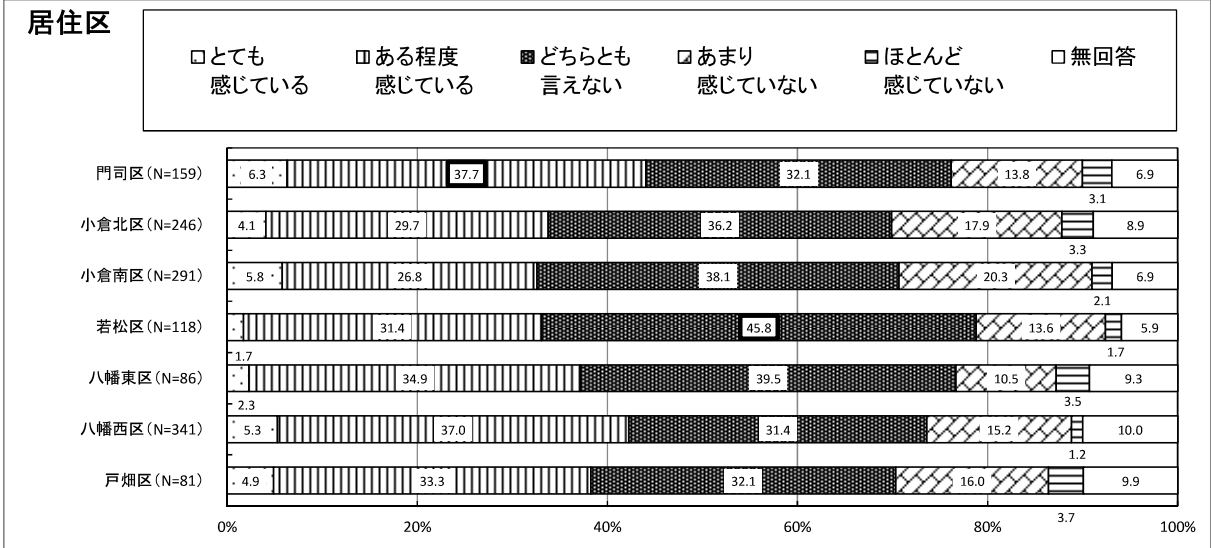
・否定層 18.6%

(「あまり感じていない」16.3%+「ほとんど感じていない」2.3%)



### ③ 子どもの教育をめぐる環境づくりへの満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

④ 子どもたちが、いきいきと学び、成長していると感じられない理由

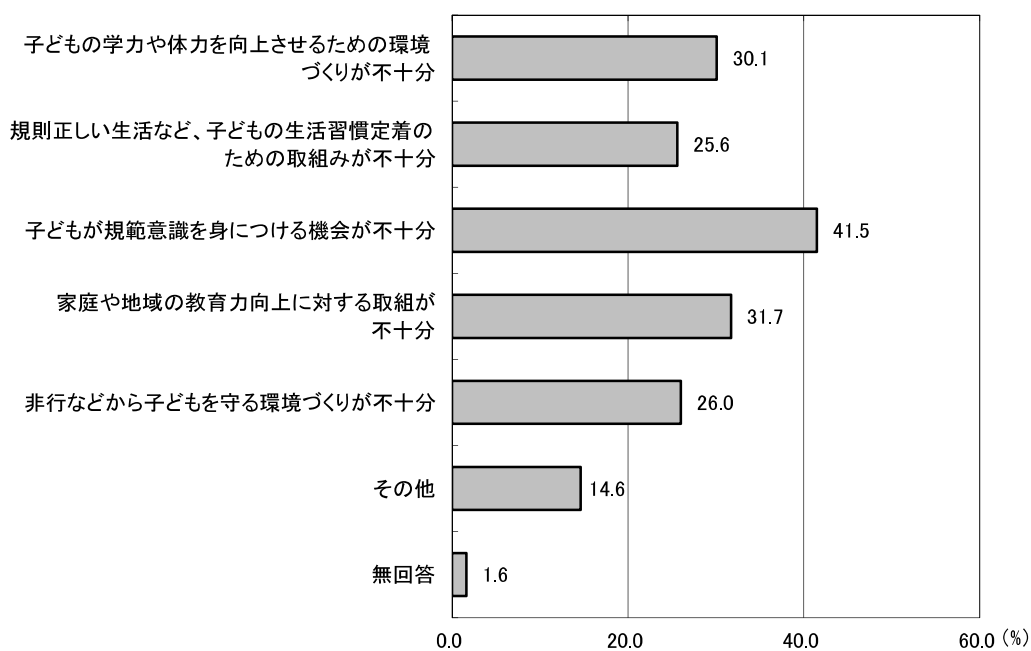
副問3-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを2つまで選んで下さい。

N : 246人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 子どもの学力や体力を向上させるための環境づくりが不十分	74	30.1
2 規則正しい生活など、子どもの生活習慣定着のための取組みが不十分	63	25.6
3 子どもが規範意識を身につける機会が不十分	102	41.5
4 家庭や地域の教育力向上に対する取組みが不十分	78	31.7
5 非行などから子どもを守る環境づくりが不十分	64	26.0
6 その他	36	14.6
無回答	4	1.6

◇ 子どもたちが、いきいきと学び、成長していると感じられない主な理由は、

- 1位 「子どもが規範意識を身につける機会が不十分」(41.5%)
- 2位 「家庭や地域の教育力向上に対する取組みが不十分」(31.7%)
- 3位 「子どもの学力や体力を向上させるための環境づくりが不十分」(30.1%)



④ 子どもたちが、いきいきと学び、成長していると感じられない理由

		サンプル数	子どもの学力や体力を向上させるための環境づくりが不十分	規則正しい生活など、子どもの生活習慣の取組みが不十分	子どもが規範意識を身につける機会が不十分	家庭や地域の教育力向上に対する取組みが不十分	非行などから子どもを守る環境づくりが不十分	その他	無回答
全体		246	30.1	25.6	41.5	31.7	26.0	14.6	1.6
性別	男性	98	26.5	15.3	40.8	37.8	26.5	16.3	3.1
	女性	147	32.7	32.7	41.5	27.9	25.9	13.6	0.7
年齢別	10・20歳代	17	23.5	29.4	11.8	29.4	47.1	29.4	0.0
	30歳代	42	35.7	23.8	42.9	26.2	38.1	9.5	0.0
	40歳代	49	28.6	30.6	42.9	24.5	26.5	14.3	6.1
	50歳代	46	32.6	19.6	50.0	41.3	21.7	8.7	0.0
	60歳代	55	30.9	30.9	40.0	30.9	21.8	18.2	1.8
	70歳以上	36	25.0	19.4	41.7	38.9	13.9	16.7	0.0
現在地居住年数別	1年未満	6	16.7	33.3	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0
	2年未満	14	35.7	14.3	28.6	14.3	42.9	21.4	7.1
	3年未満	12	25.0	8.3	58.3	16.7	41.7	25.0	0.0
	5年未満	10	20.0	30.0	10.0	40.0	40.0	30.0	0.0
	10年未満	38	28.9	23.7	26.3	34.2	28.9	15.8	2.6
	20年未満	46	26.1	26.1	50.0	39.1	26.1	10.9	0.0
	30年未満	49	30.6	28.6	36.7	28.6	32.7	16.3	0.0
	30年以上	67	34.3	28.4	49.3	32.8	11.9	11.9	3.0
職業別	自営業	12	41.7	8.3	41.7	41.7	16.7	16.7	8.3
	自由業	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0
	会社員	75	32.0	26.7	42.7	29.3	38.7	9.3	1.3
	公務員・教員	12	8.3	50.0	41.7	33.3	25.0	0.0	0.0
	農・林・漁業	2	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫(パートなど)	32	46.9	25.0	40.6	28.1	18.8	21.9	0.0
	主婦・主夫(専業)	44	36.4	25.0	47.7	36.4	13.6	9.1	2.3
	学生	6	0.0	16.7	0.0	16.7	50.0	33.3	0.0
	無職	45	20.0	22.2	46.7	28.9	24.4	20.0	2.2
	その他	14	14.3	35.7	14.3	50.0	21.4	28.6	0.0
居住区別	門司区	27	33.3	25.9	33.3	25.9	40.7	11.1	0.0
	小倉北区	52	17.3	40.4	32.7	36.5	17.3	21.2	1.9
	小倉南区	65	38.5	24.6	33.8	38.5	26.2	10.8	1.5
	若松区	18	27.8	11.1	50.0	27.8	27.8	16.7	0.0
	八幡東区	12	33.3	25.0	41.7	16.7	25.0	16.7	8.3
	八幡西区	56	33.9	17.9	57.1	28.6	25.0	14.3	1.8
	戸畑区	16	18.8	25.0	50.0	25.0	31.3	12.5	0.0
同居家族別	1人暮らし	24	16.7	20.8	41.7	16.7	37.5	25.0	0.0
	夫婦のみ	59	28.8	22.0	44.1	39.0	27.1	13.6	0.0
	親子(2世代)	129	30.2	28.7	41.1	32.6	24.0	10.9	3.1
	親・子・孫(3世代)	22	45.5	18.2	31.8	31.8	22.7	27.3	0.0
	その他	10	40.0	40.0	40.0	10.0	30.0	20.0	0.0

(注) 太字 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

## 子どもの教育をめぐる環境づくりへの満足感

### 【全体的傾向】

安心して子育てができるまちだと感じているかどうかをみると、「とても感じている」は4.8%、「ある程度感じている」は32.6%、合計すると、肯定層は37.4%である。一方、「あまり感じていない」は16.3%、「ほとんど感じていない」は2.3%、合計すると、否定層は18.6%である。

肯定層（37.4%）が否定層（18.6%）を18.8ポイント上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、肯定層は70歳以上（41.3%）と10・20歳代（40.2%）で高かった。逆に、否定層は30歳代（28.6%）と40歳代（25.2%）で高く、子どもを学校に通わせている年齢層で高くなっている。
- 現在地居住年数別にみると、肯定層は3年未満（41.4%）で最も高い一方、否定層も29.2%で最も高くなっており、評価がやや二極化している。
- 職業別にみると、学生で肯定層が48.3%と最も高くなっている。
- 居住区別にみると、肯定層は門司区で44.0%と最も高く、小倉南区で32.6%と最も低くなっており、その差は11.4ポイントである。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（31.6%）から平成24年度（40.8%）は高くなったが、今年度（37.4%）は若干低くなった。一方、否定層は、平成21年度29.6%→平成24年度20.0%→今年度18.6%と、毎回低くなっている。

## 子どもたちが、いきいきと学び、成長していると感じられない理由

### 【全体的傾向】

子どもたちが、いきいきと学び、成長していると感じられない主な理由は、「子どもが規範意識を身につける機会が不十分」（41.5%）が最も高く、次いで「家庭や地域の教育力向上に対する取組みが不十分」（31.7%）、「子どもの学力や体力を向上させるための環境づくりが不十分」（30.1%）の順となっている。

### 【属性別にみた傾向】

- 性別にみると、「家庭や地域の教育力向上に対する取組みが不十分」で男性（37.8%）が女性（27.9%）を上回り、「規則正しい生活など、子どもの生活習慣定着のための取組みが不十分」で女性（32.7%）が男性（15.3%）を上回っている。
- 年齢別にみると、「非行などから子どもを守る環境づくりが不十分」は、10・20歳代（47.1%）で最も高く、次いで30歳代で38.1%と、若年層で高くなっている。
- 職業別にみると、主婦・主夫（パートなど）では「子どもの学力や体力を向上させるための環境づくりが不十分」が比較的高くなっている。
- 居住区別にみると、「子どもが規範意識を身につける機会が不十分」は、八幡西区（57.1%）で最も高く、次いで若松区及び戸畑区（50.0%）と、これらの区で5割以

上を占めている。

#### 【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 学校における教職員の負担が極めて大きい。
- ・ 指導者の教諭に差がある。
- ・ 学校や地域の格差が大きい。
- ・ 親など大人の模範意識が低い。